

見てみよう！歴史地震記録と 旬のあいち < 11 月 >

みくりや 御厨神社

所在地：豊橋市西七根町

交通：JR 東海道本線「二川」駅 南約 5.5km

渥美半島は、半島を形成している台地の地層が雨水等によって崩落しやすい痩せた累層であるために、台風や大雨のたびに、海岸線の崩落や浸食による後退現象が繰り返されてきた地域です。また、しばしば大規模な地震による津波が襲う地域でもあり、津波によっても同様に海岸線の崩落や浸食が繰り返されてきました。

嘉永7(1854)年11月に発生した安政東海地震の際にも、渥美半島に大きな津波が襲来しました。安政東海地震による渥美半島の状況については種々の記録がありますが、高さ30mにも及ぶ巨大な津波が襲来したことが記された記録もあるほどです。

この安政東海地震による津波の凄まじさを物語る一枚の絵馬が、豊橋市西七根町の御厨神社に奉納されています。

絵馬は「縦65cm、横82cmのキャンパス一面は異様とも云える深紅色が塗られ、地震、津波の尋常ならぬ恐ろしさを直感させ」るものであり、「画面のほぼ中央部には荒浪に押し付けられたかの傾めした松の根元に、一隻の漁船が、さか巻く白浪をかぶり身動き出来ない様に描かれ、更に画面中央左側には、これ亦直径50～60cm程かと想わせる根元むき出しの古松の枝に手こぎの小船が渦巻く荒波の中に漂泊している。」様が描かれています。（「一名主による宝永地震文書と二つの神社の奉納絵馬」より）

絵馬には大木が描かれていますが、渥美半島の沿岸部では大木はめったに成長しないので、かなり内陸のほうまで津波が押し寄せたことが想像されます。

地震の際、同神社は海岸線からほど近いところにありましたが、地震から13年後の慶応3(1867)年、約180m後方の現在の地に再建されます。絵馬はその際に、地元の人々が「舟だけでも助かったのは、神社のおかげ」と感謝し、打ち上げられていた舟の部材を額として奉納したものです。

こうした地震による津波や、台風や大雨などの経験から、この地域の人々は、浜屋敷、中屋敷、山屋敷、本屋敷というように、二度、三度と屋敷の移転を繰り返し、今日に至っています。御厨神社も、安政東海地震の前の宝永4(1707)年の宝永地震の際にも、内陸への移転を経験しています。

なお、渥美半島はもと伊勢神宮領であり、この地域は伊勢神宮へ様々な供物を提供する御厨（伊勢神宮の台所）がたくさんありました。この西七根町の御厨神社では、伊勢神宮から下賜を受けた鳥居や御門を見ることができ、伊勢神宮との関係の深さがうかがえます。裏面に掲載したささゆりの里とともにぜひ一度お立ち寄りください。（現時点では、普段は絵馬を見ることができませんが、イベント（講座等）により公開があるようです。）



御厨神社本殿



安政東海地震の惨状を伝える絵馬



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こること実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 御厨神社の周辺には…

● ささゆりの里（震災鎮めの石碑）

所在地：豊橋市伊古部町字南椎ノ木谷

交通：豊橋鉄道「大清水」駅南東約5km

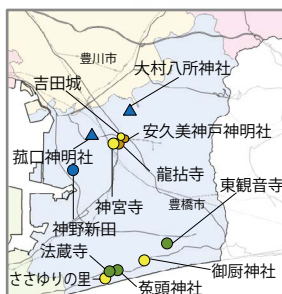
案内板には、「この石碑は、安政6年に網元の仙太郎さんが震災が二度と起きないことを願って建てました。」と記されており、また嘉永7（1854）年安政東海・南海地震の言い伝えによれば「大津波を伴っており、推定29mの高台まで海水が上がった」と記されています。



● 東観音寺

所在地：豊橋市小松原町

交通：JR 東海道本線「二川」駅南約5.5km



宝永4（1707）年宝永地震の大津波により被害を受け、現在地に移転したとの記録が残っています。津波前後の絵図や石碑も残されています。



◆ 詳細な地図は『滅斎さんの歴史地震記録伝承 Web サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 二川宿本陣まつり

豊橋市二川町と大岩町は、江戸時代に東海道五十三次中 33 番目の宿場二川宿が置かれていました。二川には、現在でも江戸時代の町割りがほぼそのままの状態に残り、東海道筋では滋賀県草津市の草津宿本陣田中家（国指定史跡）とここだけに現存する本陣の遺構があります。毎年11月（平成26年は9日）には、この本陣を含む二川宿本陣資料館周辺で、吉田城主松平伊豆守信明の大名行列を再現した、二川宿本陣まつり「大名行列」が開催されます。



二川宿本陣資料館

二川宿本陣資料館では、大名や公家など貴人の宿舎であった本陣と、隣接する庶民の宿・旅籠屋を公開しており、併設する資料館では、「東海道」「二川宿」「本陣」という3つのテーマの常設展示と、企画展を開催しています。また、1階の体験コーナーには、浮世絵刷りや双六ゲームなどがあり、江戸時代の旅を楽しく学ぶことができます。なお、資料館では、11月16日までの会期で、江戸時代の女性の旅を紹介した企画展「旅セヨ乙女」を開催しています。

● ブレイクタイム ●

♪ 豊橋カレーうどん

豊橋といえば豊橋カレーうどんがすっかり定番となり、全国的にも有名になりました。豊橋カレーうどんは、カレーうどんの下にとろろごはんが隠れているその組み合わせがまず目を惹きますが、それが実は、カレーうどんで残りがちなルーを味わうための工夫であったり、自家製麺率100%、豊橋産のうずらの卵使用、愛情をもって作る♡など、随所にこだわりが見られる名物です。



豊橋カレーうどん坊や「イエローくん」

豊橋カレーうどんファンクラブやカレーうどんMAP（右図は一部抜粋）など、カレーうどんを普及させるための様々な取組が行われています。

ぜひ一度ご賞味ください。



カレーうどん MAP / 豊橋市商工会議所より
<http://www.honokuni.or.jp/toyohashi/imgs/udon/curryudon.pdf>

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『滅斎さんの歴史地震記録伝承 Web サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：滅斎の会（仮称） 山本 真一郎 平成26年11月）